
世紀末の魔術師～その後～

a n g e l

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

世纪末の魔術師～その後～

【著者】

N1725F

【作者名】

angel

【あらすじ】

劇場版世纪末の魔術師のその後。キッズとコナンのお話です。

(前書き)

これは今日、テレビで放送されるから作りました!
急いで作ったんだどうかな?とは思いますが・・・

「ナンは窓の外を眺めていた。そして考え事をしていた。

その日「ナンは驚いていた。

今日は蘭に正体がばれそうになり、怪盗キッドがたすけにきた。

「ああ、今日は大変だつたぜ」

気が付くとそう漏らしていた。

「ナンはこんなことを考えていた。

よくよく考えて見れば変な話だ。フツー俺が工藤新一っこにきづくか？

それに電話してたのを聞いてたとしても、マトモに受け止めるはずがねえ。一体なんで納得したんだ？

そんなことを考えているうちに怪盗キッドの正体が知りたくなった。するとはかつてか、はからずか、タイミングよく怪盗キッドが降り立つてきた。

「ナンはキッドと話した。

「お前、俺の正体知つてるだろ？」

キッドは当たり前かと言つぱり答えた。

「そんなのわかりますよ」

「何でだ？フツー驚くだろ」

「それは言えません」

コナンは、その返答に不満だったが、なんとなく理由がわかったので聞かないことにした。

「オメーの名前は？」

核心を突いた。意外にもあっさり答えてくれた。

「黒羽快斗だ。お前と同じ学年だぜ」

コナンは疑問が解けて納得したようだった。
逆にキッドが話しかけてきた。

「他に聞きたいことは？」

「とりあえず、こんなもんかな？」

「今来た理由はそれを教えに来たんだよ。探偵君？なぜかわかるかな？」

「ナンは心の中でつぶやいた。

(わかるだ、それぐらい)

キッドはそのあと去つていった。

2人は、その日から絆のようなものが生まれていた。

(後書き)

「駄文じゃねーかー！」

と思つた方々は多いでしょう。

そのとおりです。すみません。

ホントは蘭も書こうと思つたのですが・・・

もし、あつた方がいいと思う方がいれば書つてください。これより
はまともに書きますんで・・・

この文章を読んでくださつた方、本当にあつがひとつになりました！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1725f/>

世紀末の魔術師～その後～

2010年10月14日01時43分発行